

# 雅風会たより

## 第10号



### 目次

- ◆ はじめに
- ◆ 故川村先生作品資料のご利用について
- ◆ 截金、はじめの一步
- ◆ あ・ら・か・る・と

2024年7月10日 編集・発行 宗教芸術院「雅風会」  
東京都品川区大崎 3-3-10

URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu/>

## ◆ はじめに

「雅風会たより」第10号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

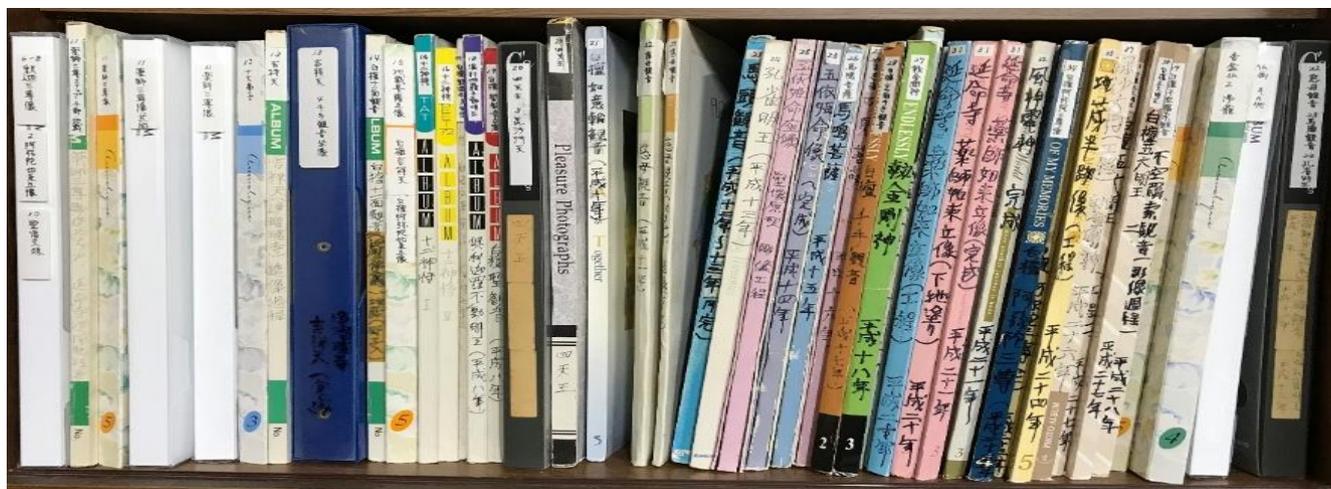
6月から真夏日が全国各地続々と！本格的な夏を前に、暑いのも寒いのもどちらもこたえるとはやいています。

毎年7月の当誌発行のときには、秋の京都・仏教美術展が急に近くなったように感じます。参加するたびにいろいろな方との出会いがあり、次の年へつながっていくのも、60回以上も続いている「仏教美術展」のゆるぎない伝統の奥深さならではのことと思います。

秋に向かってピッチを上げて彫刻！また会場でお会いできますように。合掌 (岩場記)

## ◆ 故川村先生作品資料のご利用について

川村先生が残された作品の資料を、仏像彫刻の参考資料として利用し易いように再整理しました。残念ながら図面はあまり残っていませんが、彫像工程の記録が残されているものもあり、写真資料は充実しています。



資料のご利用はこれまで通り仏像彫刻を目的とした場合に限りさせていただきますが、皆様にご活用いただけましたら幸いです。

ご利用いただけるのは次の作品の資料です。

02\_阿弥陀如来\_S. 54 / 03\_毘沙門天\_S. 55 /  
04\_千手観音\_S. 56 / 05\_仁王\_S. 57 / 06\_普賢菩薩\_S. 58 / 07\_文殊菩薩\_S. 59 / 08\_釈迦如来  
S. 60 / 09\_七福神\_S. 61 / 10\_聖僧文殊\_S. 62 /  
11\_薬師三尊\_S. 63-H. 1 / 12\_釈迦十大弟子\_H. 2  
/ 13\_吉祥天\_H. 3 / 14\_白檀十一面観音\_H. 4 /  
15\_地蔵菩薩\_H. 5 / 16\_十二神将\_H. 6 (3) / 17\_  
白檀釈迦如来坐像\_H. 7 / 18\_俱利伽羅不動明王  
\_H. 8 / 19\_白檀聖観音立像\_H. 8 / 20\_四天王  
\_H. 9 / 21\_白檀如意輪観音\_H. 10 / 22\_慈母観音\_H. 11 / 23\_馬頭観音\_H. 12 / 24\_孔雀明王\_H. 13 /  
25\_玉依姫命\_H. 14 / 26\_馬鳴菩薩\_H. 15 / 27\_妙見菩薩\_H. 16 / 28\_二十七面千手観音\_H. 17 / 29\_  
執金剛神\_H. 18 / 30\_佛龕仏界\_H. 19 / 31\_薬師如来立像\_H. 20 / 32\_風神雷神\_H. 21 / 33\_釈迦涅槃  
像\_H. 22 / 34\_白檀阿弥陀三尊像\_H. 23 / 35\_地蔵菩薩半跏像\_H. 24 / 36\_弁財天半跏像\_H. 25 / 37\_  
深沙大将\_H. 26 / 38\_五大明王\_H. 27 / 39\_白檀不空羂索観音\_H. 28 / 40\_白檀阿弥陀如来坐像\_H. 29  
以上です。



## ◆ 截金、はじめの一步！

「截金とは、線状に切り切った金箔、あるいは丸、三角、菱形等に切り抜いた金箔で文様を描く装飾技法です。・・本来は仏さまの衣や装身具の文様を表わし荘厳するために仏像彫刻や仏画で用いられた技法ですが、現在では仏教美術の枠を越えて截金そのものが工芸の一分野として確立し、多くの人に手掛けられるようになってまいりました。・・・大陸より日本に伝えられておよそ千四百年、截金は今日では日本でのみ継承されている貴重な伝統技法です。」

長いあいだ漠然と、截金は特別な手の届かないものと考えていました。ところが第 60 回仏教美術展の会場で偶然お話をさせていただいたご婦人は、截金を 69 歳のときに始められたとのこと。しかも東京から截金教室に通われたとお聞きし、截金が急に身近で現実的なものになりました。「これまでに彫った仏像に截金を施したい！私にもできるかもしれない！」と思い仏所の彫刻の先生に相談すると、早速真や先生のところへ連れて行ってくださいました。その場で截金教室へ入門！

思いがけない展開で賽は投げられたのでした。



本部截金教室

翌月から截金教室に通い始めました。道具は初めてのものばかり。まずは竹刀を作ります。竹はこう持って小刀はこう当てて、刃を出すときには小刀は動かさずに竹の方を引くなどなど・・・ひとつひとつ丁寧に指導いただきました。が、何をやっても難しい！金箔を切れば枝毛ばかり作ってしまい、

左手に取り筆右手に截金筆を持って同時に運んで截金を施す、なんて日常にはない両手の動作！切った箔の太さの微妙な差異が分からなくて「皆同じ太さに見える！と言うと「分かるようになるんや！」と先生。まわりの先輩たちはいとも簡単に金箔を操っておられます。

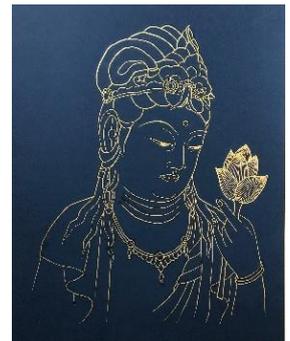
金箔を切り切る練習をしてからいよいよ截金本番です。直線から曲線へ、格子やつなぎ紋、柄を置き模様が生まれると視界が一変します。一本の線が美しく温かい。集中してスッと引けた時のシーンとした快感！截金の世界にグングン引き込まれていきました。



「わずかな風にも揺らぎ、指先に触れば付着し、はがそうとすると指につき、そうこうしているうちにクシャクシャになって使いものにならなくなる・・、ほとんどの方がこの金箔というやっかいな素材に慣れない間は戸惑われます。金箔の扱いに慣れたあとも根を詰める細かい作業の連続。そんな手仕事でありながら私を始め皆さんが何故、截金に熱意を注いでいるのかといえば、ひとえに截金によって描かれる装飾美を求めるがゆえといえるでしょう。金箔で創る文様、仏さまの光そのものの金色の線、その美しさに惹かれて完成させるまでの截金の作業のひとつひとつさえ、むしろ愉しく感じられるのです。」

はじめは私には無理なのではないかと思った截金。ひとつひとつ学習しながら紺の色紙に截金の「観音菩薩」が（デコボコの線でも）なんとか完成した時の嬉しさは、「仏足」を初めて彫り上げた時の感激に通じるものがありました。始めたばかりの「截金」ですが、仏像彫刻の世界も膨らんでいくように感じています。 合掌

※下線部分は「截金-金箔芸術の美と技法」（松久真や著 淡交社刊）からの引用です。



(岩場記)

\*\*\* あ・ら・か・る・と \*\*\*

◆ 賛助会仏像彫刻作品集について

ホームページの賛助会員の方の個人作品集ページについて、当初は編集上の事情から1名につき12点までに制限させていただきましたが、追加の作品写真の掲載が可能になりました。この機会にご自身の作品を追加掲載し、さらに充実したページにされてはいかがでしょうか。

掲載写真は、これまでどおり仏教美術関係の作品1点につき1枚までですが、枚数制限はありません（あまりに多い場合はご相談させていただきます。）

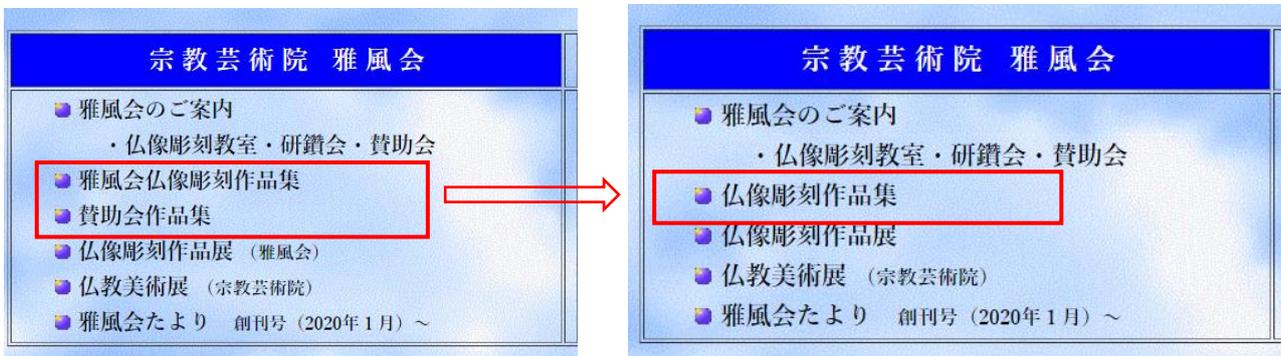
ぜひご活用ください。

◆ 個人別作品集のインデックスページについて

研鑽会、教室、賛助会の皆様の作品のインデックスページを共通（1本化）にしました。

それに伴い、ホームページのトップページの目次（個人別作品集の入口）も変更しました。

個人の作品集のアドレスはこれまでどおりで変更はありません。



◆ 賛助会会員の皆様へ-令和6年度会員継続のお願い-

平素は雅風会の活動にご理解ご協力を賜り、御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、令和6年度（令和6年7月～令和7年6月）も引き続き継続していただけますよう、宜しくお願い申し上げます。 ※会費は、別紙の宛先（岩場宛に変更になりました）に8月末日までにお納めください。

◆ 「第61回仏教美術展」(宗教芸術院) 開催のお知らせ

日時：令和6年11月15日（金）～11月17日（日） ※14日（木）は会場準備

場所：京都文化博物館

出品申込：

- ・研鑽会員の方は岩場へ、教室所属の方は各教室講師に、出品料を添えて8月末日までにお申し込みください。
- ・賛助会員で出品ご希望の方は、8月10日までに岩場（連絡先別紙）へご連絡ください。搬入、搬出など詳細をご相談させていただきます。

出品のお誘い：

- ・毎年出品されている方はもちろんのこと、これまで出品したことがない方も、出品が久しぶりの方も、今年こそ出品しましょう、大歓迎です！
- 迷っている方、まずは岩場までご連絡ください！

（第10号編集責任：岩場）

第11号は明年1月に発行の予定です。